

新宮山彦ぐるーぶ第1944回

## 行仙宿にて「東京大学生・教授他関係者」の体験学習

◇実施日：2017年09月01日(金) 快晴

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、生熊敏男・千満子、濱野兼吉、

山川治雄、中川治平、大江加予子、畑林秀味・清子、

梶野照雄、中前 偉。 12名。

**東京大学生・教授他関係者**：濱田純一(東大名誉教授(前総長))、

秋山 聰(東大教授、鏑木道剛東北学院大教授、マヌエ

ル・タルドイツ(建築家)。学生：伊藤 慶、大萩雅也、

高橋優太、益田伊織、横田 悟、金子実礼、五道芙美、

坂田柚子香、竹之内 彩。大学院生：大久保圭介、

太田泉(フロランス)。 計15名。

**市役所・生涯学習課**：森 奈良好(前課長、南 拓也(課長)。

2名。

去年の暮だったか、今年の始め頃だったか忘れたが、新宮市役所生涯学習課・森 奈良好(当時)から、9月上旬東京大学の学生や教授が来新され、自然体験学習等行う、については期間中の一日だけ、行仙宿で面倒を見てくれとの話だった。

直ぐ思い出したのは、平成2年に行仙宿が完工直後の玉岡現相談役の言葉(レポート)で、小屋の利用、用途について修験者や一般登山者がメインであるが、それに止まらず子供達や学生、又企業の新人などの体験の場として、幅広く利用されなければならぬとの記述が常に頭にあって、即引き受けさせていだいた。

その後、森課長と仲間の中前君(市役所勤務)のお二人が私の家へお見えになり、9月1日20名で実施、作業内容等の骨子を打合せした後、8月22日には市役所を訪問し、時間等の細部について詰を行った。

打合せの過程で、今回の行事は東京大学・濱田純一前総長が提

唱した「よりタフに、よりグローバルに」を元に2012年から始まったプログラムの一つで、新しい考え方や生活様式を学び新しいアイデアを生み出す力を身に付ける事が狙いで、社会貢献・国際交流・自然体験・地域体験・就労体験など、国内で実施するプログラムは全76種類がある。

今回の企画責任者の秋山 聰・東大人文社会系研究科教授が、平成13年9月に大雲取越えを歩かれ、又昨年5月市内で講演されたご縁から熊野に興味を持たれ今回の来新になった様である。今回の活動名称は「聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ」に基づいて、新宮市が体験活動プログラム(3泊4日)を企画し、第2日目に仙宿での体験学習が組み込まれました。

8時50分に補給路登山口に着くと、沖崎車(沖崎・山川・畑林兄弟・中川)はすでに到着し各々登山準備中だった。8時55分に川島車(川島・濱野・生熊夫妻)も到着。

参加者が揃ったので、モノレールを2往復して荷物の5Lガソリン缶、水(7Lポリタンク2個)、食料等運び登り始めた。川島、濱野の2名は、新宮8時発の東大生等の到着を待ため登山口で待機。



登山準備中



モノレールで運搬



行者堂前幟立て

モノレール終点には、登山口水場からのポリタンク2個が残されていた。生熊さんと畑林さんが、それぞれ担いでくださった。9時50分に行仙宿に到着。先着した人によって行者堂前に幟が立てられて、5月の修復・役行者像開眼供養以来のにぎやかさになっている。

女性陣は、お椀などを出して昼食時の味噌汁の準備、他メンバーは体験学習の薪割りに必要な道具を倉庫から運び準備する。

10時半、そろそろ東大生が着く頃かと、沖崎・中川・畑林秀さんが、空のペットボトルを持って水場に下りて行った。

登山口に待機した濱野・川島は、9時半過ぎに到着と聞いていたが、10時になっても到着しない、先導した中前氏が10時15分頃に到着。中前氏が待機した熊野川支所には8時45分頃に着き30分以上遅れているとのこと。東大生等の乗車したマイクロバスは、登山口手前の広い場所に駐車したので、歩いて登山口に10時20分頃の約1時間遅れで到着。

森課長より企画責任者の秋山教授の紹介があり、川島は挨拶と名刺交換をした。

到着参加者は、東大生9名+東大院生2名+教授他4名+市役所3名(中前氏含む)の計18名である。



登山口より急勾配の鉄製階段を登る

大きな荷物はモノレールに積み、トップ中前氏、ラスト濱野氏にお願いして、川島はモノレールで終点へ。

陽がきついが気温が低く、第二ベンチの木陰では涼しく感じる。快晴で眺望も良く大台ヶ原の山並み、池原ダム湖も良く見える。11時になっても到着の気配がない。生熊敏さんが「迎えに行つて来るわ」と下り始めた。五分ほどで戻つてこられて、その後中前さんを先頭に学生らが続いていた。最後尾は、先頭から6分遅れの到着だった。

全員が揃ったところで、川島から行者堂内の修復役行者の経緯(胎内文書及び顕彰の3行者(前田勇一・伊富喜秀明・佐藤貫道)の添書きを見て欲しいと説明し、行者堂で勤行。中前導師の法螺(佐藤行者遺品)、生熊氏の錫杖(伊富喜行者遺品)の音が響き渡り、学生たちにとっては、おそらく初めての体験であろう行者の所作に興味津々だったと思う。



行者堂内説明



中前導師で勤行



背負い子で水汲みへ

11時20分、先に昼食という声もあったが、水場で待機していることから、水汲みの体験を優先した。希望者だけでもと思っていたが、全員が水場へ降りた。小屋の温度計は24℃。先週の水場の状況から、水が枯れていることが予想できたので、

ポリタンクは「10」を一個だけ持って行った。



狭く岩壁下の行仙宿水場での水汲み

降りてみると案の定水は流れていない。ペットボトルはすでに満タンにされていたので汲み上げの必要はなく、順番に水場へ降りてもらい、水場と命の水の重要性を確認していただいた。

「10」のポリタンクは担いで上がるつもりだったが、全員が水場へ降りたため空荷の学生が居て「担いで上がります」と自ら協力を申し出てくれたおかげで登りは楽ができた。知力も体力もあり頼もしい限りである。

「水は命なり」大峯奥駈道、とりわけ南奥駈道は尾根通しに辿ることから水場が遠く苦労する、いわゆる修行である。此処の水場は、實利行者にお願いして見つけられた水場であり、この水場がなければ行仙宿が建てられなかった。近年、水場が涸れる事が多くなり、溜り水は沸かして飲料・炊事に使用する事になります。

皆さんの汲み上げた水は、ペットボトルはポリタンクへ移し、貴重な水は誰が何時汲んだかを白板に記し、使用する者が汲み上げ日を確認すると共にありがたく使ってくれると思う。本日皆さんが運び上げた水(ポリタンク4個)は、9月1日東大生と記した。12時20分全員が小屋に戻って、大江・畑林清・生熊千さん

達が調理した味噌汁で昼食。昼食の終り頃に「新宮山彦ぐるーぶの紹介と活動の主な歩み」資料(右)を配布し川島が経緯等を説明。



世話人挨拶



昼食風景



森課長より中川治平さんが紹介されご挨拶された後、秋山教授、濱田名誉教授(前総長)よりご挨拶を頂いた。

本来なら参加者全員の簡単な自己紹介をするべきであるが、時間もなくて当方から川島世話人代表、沖崎事務局が紹介挨拶した。



昼食風景



秋山教授ご挨拶



濱田名誉教授ご挨拶

昼食時間40分弱で、中前さんを先頭に世界遺産「大峯南奥駈

道」である行仙岳ピストンへ向かう。学生たちは若いだけあって  
 どんどん先に行くが、教授陣は若干遅れ気味だ。それでも休憩無  
 しで行仙岳に到着。

釈迦ヶ岳や奥駈道の山並みの眺めを楽しみ、全員の写真を撮  
 ってから、北面を下り捲き道経由で行仙宿小屋に戻った。



行仙宿を発ち行仙岳へ

行仙宿を出た最初の急登

行仙岳山頂にて



行仙岳山頂にて

行仙岳北面(下り)の南奥駈道

小屋に戻って、しばらく休んでから薪割りを体験して頂いた。  
 最近ではよほどの山間部でなければ、斧を使って薪割りをする

ことは無いと思うので、学生達には貴重な体験になったことと思  
 う。短い時間だったが、コツを掴めた学生もいたようだった。  
 川島は、薪割りの間に濱田名誉教授、秋山教授に管理棟内をご  
 案内した。



行仙岳から戻り小休止

薪割り体験作業

薪割り体験を終えて下山準備、行者堂前で集合写真を撮って下  
 山した。

東大生等一行は、先に下山されたがモノレール終点で小休止、  
 何人か乗って下山体験された。



薪割り後のコーヒー

行者堂前で記念撮影

撮影後の下山前

登山口上の冷たい湧水水場で手を洗ったり、喉を潤したりして頂いて、全員無事下山した。慌しく本当にお疲れ様でした。



無事登山口に到着

この企画は全学に参加希望者(10人)を募ったようで、学年も一年から四年までバラバラ、大学院生もいたようで、自ら希望して参加しているだけあって、なんでも見よう、やってみようという意欲が見受けられた。

今回は、天候に恵まれた短時間の体験学習でしたが、是非ゆったりと寝起き・食事を共にした体験学習を企画して頂ければ幸甚に思います。皆様方との再会を楽しみにしています。

最後に、企画プログラムの中に遠方の行仙宿での体験学習を企画して下さった新宮市役所生涯学習課並びに東大教授の皆様方のご期待に添えなかった面あったと思いますが、感謝と御礼を申し上げます。

### 行動タイム

**先発班**；新宮7:00→8:40補給路登山口9:00→9:50行仙宿小屋。

**体験学習班**；新宮8:00→10:20補給路登山口10:25→11:10行仙

宿→勤行→11:37水場水汲み→12:20行仙宿→12:30昼食13:10

↓13:40行仙岳13:48→13:55行仙岳捲き道分岐↓14:20行仙宿↓  
薪割り14:45↓行仙宿15:00→15:45補給路登山口。

### 寄贈

・石橋哲郎；斧一丁。

(記；沖崎・梶野、写真；川島・梶野)